

佐藤学著「学校改革の哲学」東京大学出版会 2012年3月30日刊を読む

リテラシーの概念とその再定義—「リテラシー」から「コンピテンス」へ—

1. (1) ポスト産業主義社会に要請されるリテラシー教育はどのようなものなのか。
(2) その全容は定かではないが、それがもはや読み書きの基礎技能の教育や人文科学の古典を原型とするリベラル・アーツの教育ではないことだけは確かである。
(3) ポスト産業主義の社会のリテラシーは、高度化し複合化し流動化する知識社会における基礎教養の教育であり、批判的で反省的な思考力とコミュニケーション能力の教育として再定義されるだろう。
2. (1) ポスト産業主義社会のリテラシーの在り方を探る先駆的な挑戦として、OECDによる「キー・コンピテンス(key competences)」の研究を挙げることができる。
(2) OECDは1997年から「キー・コンピテンス」の研究に着手し、IALS(International Adult Literacy Survey)、PISA(Program for International Student Assessment)、ALL(Adult Literacy and Life Skills)の調査に活用してきた。
(3) OECDにおける「コンピテンス」のモデルは、全体的で力動的な概念とされ、複雑な要請に成功的に応答する知識や技能や態度を包括するものと定義されている。
(4) そして
 - ① グローバル社会における「機会の不平等」、「急激な社会と技術の変化」、「経済と文化の世界化」、「個人と社会の多様化と競争と解放」、「価値規範の変化」、「貧困と抗争」、「エコロジーの世界化」、「新しい様式のコミュニケーションと疎外」などの社会的な変化と課題に応えることが求められ、
 - ② 「自立的に行為し」、「相互作用的に手段を活用し」、「多様な人々と共生する」能力として定義されている。
3. (1) この「キー・コンピテンス」をもとに作成され実施されたのが、OECDのPISA調査であった。
(2) PISA調査は21世紀に要請されるリテラシーを「読解リテラシー」と「数学リテラシー」と「科学リテラシー」の3領域で示し、2000年から加盟国を中心に国際的な学力テストを実施している。
4. (1) 国際的な学力調査としては、これまで国際教育到達度評価学会(IEA)の学力調査がよく知られてきたが、IEAの調査が参加国の学校カリキュラムの共通の内容をどの程度習得しているかを調査してきたのに対して、
 - (2) ① PISA調査では、21世紀の社会に応じる「コンピテンス」を措定して、
 - ② 「将来の生活に関係する課題を積極的に考え、知識や技能を使用する能力」を調査対象とし、
 - ③ 「生涯にわたって学習者であり続けられるような知識、技能がどの程度身についているか」を調査することを目的としている。

5. (1)①「リテラシーという用語は、評価しようとする知識、技能、能力の幅の広さを表わすために用いられている」と記されているように、
- ② PISA 調査における「リテラシー」は、知識の「内容」、「構造」、「プロセス」、「状況」を含む包括的な概念である。
- (2)「読解リテラシー」は、
- ①「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義され、
- ②「情報の取り出し」「テキストの解釈」、「省察と評価」の 3 つの側面で評価テストが作成されている。
- (3)他方、「数学的リテラシー」は、「数学が世界で果たす役割を見つけ、理解し、現在および将来の個人の生活、職業生活、大人や家族や親族との社会生活、建設的で関心を持った思慮深い市民としての生活において確実な数学的根拠にもとづいて判断を行い、数学に携わる能力」と定義され、
- (4)「科学的リテラシー」は、「自然界および人間の活動によって起こる自然界の変化について理解し、意思決定するために、科学的知識を使用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出す能力」と定義されている。
- (5)いずれのリテラシーの定義も、拡張的で包括的であり、社会生活において知識を活用し応用する能力を含んでいる。
6. (1)OECD による「コンピテンス」の研究と「リテラシー」の再定義の試みは、21 世紀のポスト産業主義の社会が要請する共通教養の性格の一端を提示し、リテラシー教育を再定義をする必要を提起している。
- (2)政治、経済、文化のグローバリゼーションのもとで、平和な世界と民主主義の社会の発展を希求するとすれば、どのような市民的教養を形成すべきなのか。
- (3)知識が高度化し複合化し流動化するポスト産業主義の社会において、書字文化としてのリテラシーはどのように変貌し、どのような機能をはたすのか。
- (4)そして、リテラシーを差別と支配と抑圧と排除の手段としてではなく、人々の平等と自立と解放と連帯の手段として機能させるためには、どのような教育の実践が求められているのか。
- (5)リテラシーの概念の再定義を志向する研究と実践は、未来社会のヴィジョンを選択し創造する教育的な思索挑戦にほかならない。

P78 ~ 80

[コメント]

私の尊敬する「学びの共同体」の提唱者、佐藤学先生の最新刊。OECD PISA 調査の基底となる学力観である「キー・コンピテンシーズ」の内容がよくわかり、有難い。

*昨年 9 月から 1 年間つとめさせて頂いた足利市経済活性化諮問会議の会長職が 8 月末で終了しましたので、本日より「書き抜き読書ノート」を再開させて頂きます。よろしくお願いたします。